

令和7年9月4日

地域産学連携で栽培した福島在来古代米 「白早生」の収穫を行います！

日頃から福島大学に多大なご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

食農学類附属発酵醸造研究所と附属農場では、近代育種品種にはない個性・特徴を持つ古代米の復刻栽培と、地域の農業法人と醸造企業の協力を得て古代米を用いた発酵醸造食品の開発研究プロジェクト（白早生プロジェクト）を進めています。

本年5月に、附属農場水田（13アール、図1）で株式会社 ISEKI 東北カンパニー様のご支援により高性能田植え機での植付をした古代米品種白早生が順調に生育し（図2）、9月6日（土）に白早生プロジェクトメンバーの未来農業株式会社（福島大学発ベンチャー）による収穫作業が行われます。

当日は、収穫作業の様子などについてぜひ取材方どうぞよろしくお願いいたします。

■白早生の収穫について

日 時 令和7年9月6日（土） 午後2時～

場 所 福島大学附属農場（福島市松川町浅川）

参加者 松田 幹 食農学類教授・附属発酵醸造研究所長

西尾 俊亮 附属発酵醸造研究所 特任講師

丹野 友幸 未来農業株式会社代表取締役

（本学卒業生・福島大学発ベンチャー認定企業）

佐藤 友子 新潟県埋蔵文化財センター普及・資料課 専門調査員

福島大学発酵サークル：ファーマンタ 学生（調整中）

※収穫した粳は乾燥・脱穀した後、白早生プロジェクトメンバーの会津天宝醸造株式会社で、昨年に続き「白早生麴会津みそ」の試験醸造を行い、令和8年に開催予定の「ふくしまの酒・味噌醤油まつり」でも販売を予定しております。

※今回は2回目の白早生の栽培とみその試験醸造になります。前回より米の高タンパク質化を目指して栽培方法を改良しており、さらに美味しく、高タンパク質栄養の味噌ができることが期待されます。収穫した米のタンパク質含量などの成分特性は発酵醸造研究所で分析する計画です。

※新潟県でも中世（13世紀末から14世紀初め）の遺跡「小坂居付遺跡」と「馬場屋敷遺跡」で「しろわせ」と書かれた木簡が出土しています。

■本研究・開発のポイント

福島大学食農学類、附属発酵醸造研究所と附属農場での研究教育と地域の農業・食品産業での技術開発とを繋ぐ地域産学連携の共同研究の成果です。

■研究の背景

発酵醸造研究所では、個性的で地方色豊かな味わいの発酵食品に用いる原料米（麴米）の開発を目指した基盤研究を行っています。

■今回の成果

第1回目の白早生の栽培は、一昨年に教育（農場基礎実習）の一環として学生が手植えを行い、また復刻して初めての本格栽培で試行錯誤的な面もあり、栽培、収穫に懸念される点もありましたが、今回は改善され、古代米「白早生」の安定的な栽培と収穫の目途がたちました。

■成果の意義

大学での産学連携研究の中の「地域での社会実装研究プロジェクト」（大学での基盤的研究成果を地域の企業等と連携協力して社会実装に繋げる共創研究プロジェクト）としての産学連携基盤が構築できた意義は大きいと考えております。

■白早生プロジェクトとは

附属発酵醸造研究所では、発酵食品と原料作物の開発研究プロジェクトの一環として、個性的で地方色豊かな味わいの発酵食品を醸造することを目指しています。NARO 遺伝資源ジーンバンク等から古代稲品種と推定される保存種子の譲渡を受け、それらを復刻栽培しています。その中の一つが、福島在来の古代品種と思われる「白早生」で、会津矢玉遺跡（奈良平安時代）出土の木管にこの品種名の記載があり、福島など夏が短い北の地方での栽培に適した「早稲」（開花も熟成も早い）の性質を持っています。

この「白早生」を附属農場と未来農業株式会社の水田で栽培し、収穫した米を原料として地域の醸造企業（会津天宝醸造株式会社、株式会社 ORARA、水原麴店 醸し屋、など）と連携して味噌、甘酒、麴、濁酒などの個性的で地方色豊かな味わいの発酵食品開発する研究プロジェクトを展開しており、これを、その原料米にちなんで「白早生プロジェクト」と称しています。

(お問い合わせ先)

食農学類教授・附属発酵醸造研究所

所長 松田 幹

(電話) 024-503-4986

メール: tmatsuda@agri.fukushima-u.ac.jp

* 附属農場での教育研究など

食農学類教授・附属農場長 深山陽子

メール: y_miyama@agri.fukushima-u.ac.jp

* 「白早生」と復刻米関係

附属発酵醸造研究所 特任教授 松岡 信

メール: matsuoka@agri.fukushima-u.ac.jp

* 「白早生」の成分特性、発酵特性など

附属発酵醸造研究所 特任講師 西尾俊亮

メール: snishio@agri.fukushima-u.ac.jp

* 「白早生」の栽培特性など

未来農業株式会社代表取締役 丹野友幸

メール: t.tomoyuki@mirainogyo.com

図1 食農学類附属農場 水田

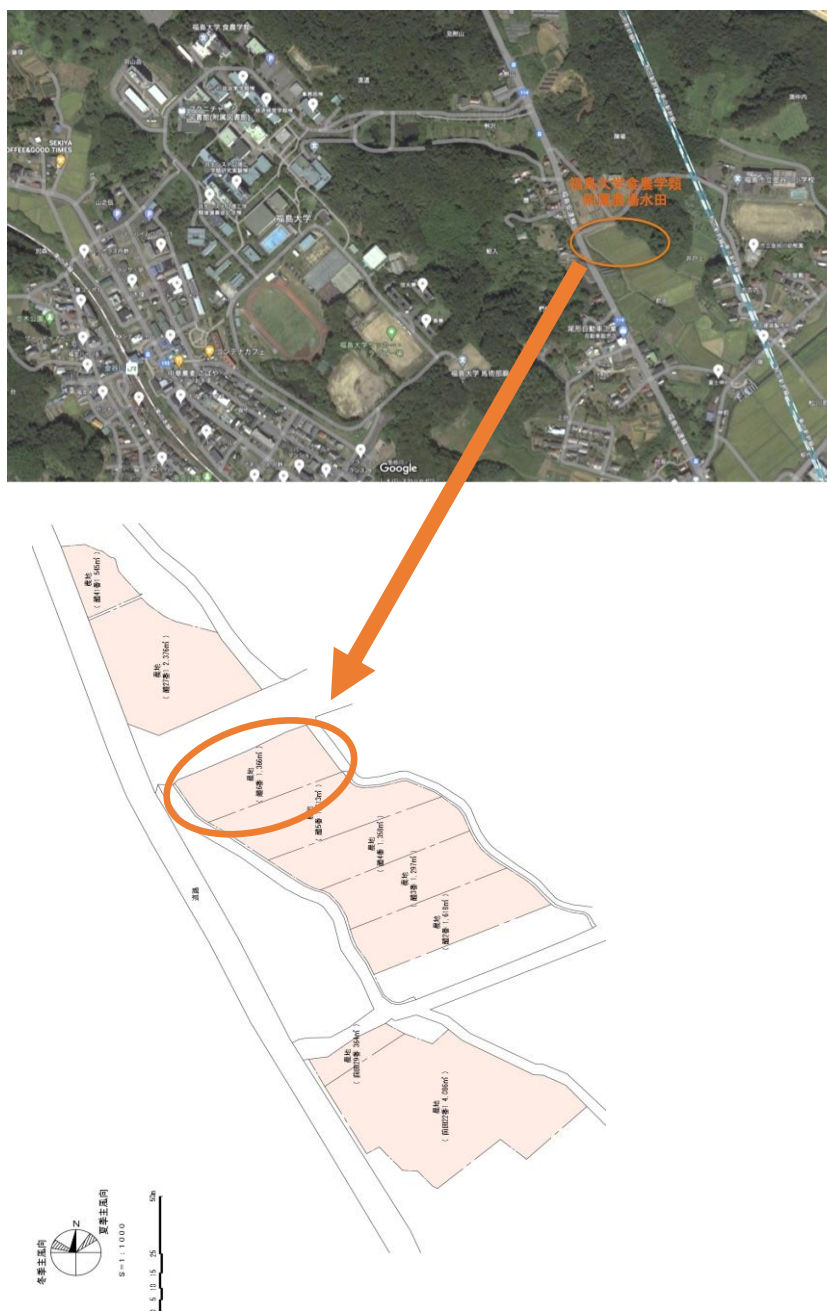




図2
20250824
附属農場の白早生

